

# 令和6年度事業報告書

社会福祉法人日吉たには会

## I . 法人運営（法人全般業務）

### （1）役員（令和7年3月31日現在）

- ・理事 定数 7名 現在数 7名
- ・監事 定数 2名 現在数 2名

### （2）評議員

- ・評議員 定数 9名 現在数 9名

### （3）理事会の開催

- ①令和6年6月5日 出席者 理事 7名 監事 2名

#### 【決議事項】

- ・令和5年度事業報告並びに計算書類及び財産目録の承認について
- ・給与規程の一部改正（案）について
- ・評議員候補者の推薦（案）について
- ・定時評議員会の招集（案）について
- ・評議員選任・解任委員会の招集（案）について

#### 【報告事項】

- ・令和5年度社会福法人に対する一般指導監査の実施報告について

- ②令和6年12月25日 出席者 理事 7名 監事 1名

#### 【報告事項】

- ・小規模多機能型居宅介護事業所はぎの里オアシスの休止について
- ・令和6年度 上半期事業報告（事業実施状況・収支状況）について
- ・はぎの里ふれあいホームの今後の事業展開について

- ③令和7年2月19日 出席者 理事 7名 監事 2名

#### 【決議事項】

- ・老人保健施設はぎの里施設長の選任について

- ④令和7年3月12日 出席者 理事 7名 監事 1名

#### 【決議事項】

- ・令和6年度第1回資金収支補正予算（案）について
- ・令和7年度事業計画（案）及び資金収支予算（案）について
- ・育児・介護休業規程の一部改正（案）について
- ・給与規程の一部改正（案）について
- ・評議員会の招集（案）について

#### 【報告事項】

- ・令和6年度社会福祉施設指導監査の実施結果について  
対象施設：特別養護老人ホームはぎの里  
ケアハウスはぎの里  
第二ケアハウスはぎの里
- ・はぎの里ふれあいホームの今後の事業展開について

#### (4) 評議員会の開催

①令和6年6月26日 出席者 評議員 8名 監事 2名  
理事 4名 (理事長・業務執行理事)

##### 【決議事項】

・令和5年度事業報告並びに計算書類及び財産目録の承認について⇒承認

##### 【報告事項】

・給与規程の一部改正について  
・令和5年度社会福祉施設指導監査の実施結果について  
対象施設：特別養護老人ホームはぎの里オアシス  
・令和5年度社会福法人に対する一般指導監査の実施報告について

②令和7年1月7日

・令和6年度上半期事業報告（事業実施状況・収支状況）の送付

③令和7年3月24日 出席者 評議員 7名 監事 2名  
理事 4名 (理事長・業務執行理事)

##### 【決議事項】

・令和6年度第1回資金収支補正予算（案）について  
・令和7年度事業計画（案）及び資金収支予算（案）について

##### 【報告事項】

・老人保健施設医師の件について  
・育児・介護休業規程の一部改正について  
・給与規程の一部改正について  
・令和6年度社会福祉施設指導監査の実施結果について  
対象施設：特別養護老人ホームはぎの里  
ケアハウスはぎの里  
第二ケアハウスはぎの里  
・はぎの里ふれあいホームの今後の事業展開について

#### (5) 評議員選任・解任委員会の開催

①令和6年6月17日 出席者 選任・解任委員 5名 (内、外部委員2名)  
理事 2名 (理事長・業務執行理事)

##### 【決議事項】

・評議員の選任（案）について

#### (6) 監事監査

①令和6年5月22日 出席者 監事 2名  
・令和5年度法人業務執行状況及び財産状況について

②令和6年11月25日 出席者 監事 2名  
・令和6年度上半期法人業務執行状況及び財産状況について

## (7) 管理者による会議

### ①管理者会議

- ・ 理事長、事務局各部長、事業部各マネージャーによる月例会議を開催
- ・ 法人運営に関する諸課題について検討

### ②管理職会議

- ・ 管理職（部長、施設長、副施設長、マネージャー）による月例会議を開催
- ・ 各施設運営及び職員状況等に関する諸課題について検討

## (8) 社会福祉法及び老人福祉法に基づく指導監査

### ①令和6年度社会福祉施設指導監査【京都府】

実施日：令和6年11月29日

監査対象：特別養護老人ホームはぎの里

ケアハウスはぎの里

第二ケアハウスはぎの里

監査結果：文書による改善報告を求める事項なし

## (9) 介護事故

①介護事故件数 42件（令和5年度 33件）

内訳：骨折15件、服薬関係13件、外傷6件、送迎中の事故4件、その他4件

②ひやりはっと件数 755件（令和5年度 939件）

## (10) 南丹市介護相談員による相談事業

- ・ 令和6年度上半期から受け入れ再開

## (11) 南丹市・南丹市社協等から依頼のあった委員会等への参画

\* 南丹市高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定委員会

\* 南丹市地域福祉計画推進委員会

\* 南丹市介護認定審査会

\* 南丹市民生児童委員推薦会及び南丹市民生児童委員推薦会日吉準備会

\* 南丹市高齢者虐待防止ネットワーク会議

\* 南丹市社会福祉協議会日吉町企画小委員会

## (12) 事業継続計画（BCP）の具体化としての自家発電設備の整備

介護保険事業の実施にあたり、災害時や感染症まん延時に安定した事業継続が可能となるように事業継続計画の策定とその運用に関する訓練の実施が義務付けられています。

令和6年度は、事業継続計画の実効性を確保するために、老人保健施設においてご利用者の生活空間の空調設備も災害時に使用できる空調設備への更新を含めた非常用自

家発電設備の整備を経済産業省の補助金を活用して行いました。

### (13) 日吉町田原地域における今後の事業運営について

はぎの里ふれあいホーム（小規模多機能型居宅介護事業所）は建物の老朽化と災害に不利な立地であることから、現行どおりの事業継続には多くの課題があります。

南丹市及び興風地域より旧興風保育所の活用についての相談があり、南丹市と協議・検討を重ねて参りました。

今後、旧保育所跡地への移転と将来的に継続した事業運営が見通せる通所介護事業への変更に向けて、取り組みを進めていきます。

## II. 法人本部事務局

### 1. 総務部

#### (1) 人材確保の取り組み

##### ①令和6年度採用・退職数

〔採用〕27名

正職員3名（介護職2名・リハビリ職1名）

准職員4名（介護職3名・看護職1名）

臨時職員20名（介護職17名・リハビリ職1名・宿直員2名）

〔正職員任用〕4名

4名（介護職3名・看護職1名）

〔退職〕18名

正職員5名（介護職2名・相談職1名・リハビリ職1名・事務職1名）

准職員6名（介護職5名・看護職1名）

臨時職員7名（介護職7名）

##### ②レンタル人事サービスの活用

求人サイト掲載求人情報の作成、掲載求人サイトの選定、スカウト送信、応募者対応

・運用求人サイト【無料媒体：5媒体・有料媒体（採用時課金）：6媒体】

・実績【応募数：33件・面接：6件・採用：3件】

・求人用ホームページの開設準備

##### ③新卒採用活動

新卒求人サイト「あさがくナビ2025」による採用・スカウト活動・イベント参加

・令和6年10月18日 あさがく京都第3回就職博参加

採用者無し

##### ④高校生求人活動

・令和6年7月 南丹地域の高等学校に求人票送付

応募者無し

##### ⑤職員確保協力報奨金制度

令和6年度実績 採用者5名

・令和6年5月1日付 介護職・臨時職員

・令和6年5月16日付 看護職・准職員（6月1日付正職員任用）

・令和6年6月10日付 介護職・臨時職員

・令和6年11月1日付 介護職・臨時職員

・令和7年2月1日付 介護職・臨時職員

## ⑥福祉職場就職面接会（ハローワーク主催）

- ・令和6年6月20日 ハローワーク西陣烏丸御池庁舎  
採用者1名（令和6年7月16日付・宿直職員・臨時職員）
- ・令和6年10月30日 ハローワーク園部  
応募者なし

## ⑦南丹市福祉職場就職フェア（南丹市主催）

- ・令和6年7月27日 南丹市国際交流会館コスモホール  
応募者なし

## ⑧FUKUSHI就職フェア京都丹波（事務局：京都府南丹保健所） （京都丹波福祉職場応援プロジェクト促進会議）

- ・令和6年10月19日 ガレリアかめおかコンベンションホール  
応募者なし

## （2）人材定着の取り組み

### ①人事考課の実施

対象：正職員・嘱託職員・准職員

令和6年度夏季人事考課：令和6年4月26日～6月24日

令和6年度冬季人事考課：令和6年10月8日～11月20日

### ②異動意向調査の実施

第1回：令和6年6月20日～6月28日

第2回：令和6年12月10日～12月23日

### ③定年退職者及び有期雇用職員に対する雇用継続意向調査の実施

定年退職者：令和6年10月1日～10月18日

有期雇用契約者：令和6年12月16日～12月27日

## （3）永年勤続表彰の実施【令和6年7月10日】

10年勤続者 4名（感謝状・金一封の贈呈）

20年勤続者 3名（感謝状・金一封の贈呈）

## （4）職員の処遇改善の取り組み

### ①初任給引上げ（処遇改善加算を活用）

- ・令和6年4月に月額10,000円引上げ（大卒介護職初任給190,000円）

### ②基本給昇給（処遇改善加算を活用）

- ・令和6年4月に平均月額4,845円（昇給率1.95%）昇給  
ベースアップ2,500円+定率昇給0.9%

### ③処遇改善手当の増額（ベースアップ）（処遇改善支援補助金及び処遇改善加算活用）

- ・令和6年4月支給分から月額2,500円（1時間15円）増額

正職員・嘱託職員 月額8,100円

准職員・臨時職員 時間給 50円

- ・令和6年7月支給分から更に月額1,700円（1時間10円）増額

正職員・嘱託職員 月額 9,800円

准職員・臨時職員 時間給 60円

#### ④ 処遇改善一時金の支給（特定処遇改善加算及び処遇改善加算活用）

- ・令和6年5月20日支給（令和5年度第3回分）  
対象者 149名 支給額 6,074,100円
- ・令和6年9月20日支給（令和6年度第1回分）  
対象者 177名 支給額 5,429,010円
- ・令和7年1月20日支給（令和6年度第2回分）  
対象者 173名 支給額 5,481,610円
- ・職種別一時金年間支給額内訳  
経験・技能のある介護職員 178,000円～206,000円  
他の介護職員 110,000円～183,000円  
その他の職種 55,000円～91,000円

### （5）職員の健康管理

#### ① 職員健康診断・頸肩腕腰痛症健診1回目

- ・令和6年8月21日～23日（21日、22日は日吉、23日はオアシス）
- ・職員健康診断 受診者132名 要再精検者44名
- ・頸肩腕障害腰痛健診 受診者100名 有所見者 1名

#### ② 夜勤従事者健康診断・頸肩腕腰痛症健診2回目

- ・令和7年2月17日～18日（17日、18日午前日吉、18日午後オアシス）
- ・夜勤従事者健康診断 受診者48名 要再精検者19名
- ・頸肩腕障害腰痛健診 受診者103名 有所見者 6名

#### ③ ストレスチェックの実施

実施期間 令和6年11月1日～11月12日

実施者数 164名

### （6）衛生委員会の開催

- ・毎月開催
- ・職員の時間外勤務状況、感染症発症状況、職員のケガや病気の報告
- ・毎月のテーマに沿った検討（健康診断や予防接種など）

## 2. 経理部

### （1）安定した収支に向けた取り組み

毎月経理部会議を開催し、その中で収支状況の確認と近年の物価高騰による光熱費及び食材・介護用品費等の値上げ状況を確認し前年度との比較を行い、それらの結果を管理者会議で報告し、法人全体での節約に取り組みました。

また、毎月の会計事務所による監査の報告書を確認後、管理職へ回覧を行いました。

## (2) 令和6年度の収支

収入では、感染症による大きな影響もなく補助金や交付金を活用しましたが、介護保険事業収入は減収となりました。

支出では、未だに続く物価高騰の影響とBCP設備の導入により増額となりました。

## (3) 各保険の見直し、更新

9月 自動車保険更新（公用車 22台）

3月 他、継続が必要な保険の更新

（雇用管理賠償責任保険、役員賠償・医師・看護師賠償責任保険

業務災害総合保険、事業活動総合保険介護保険・社会福祉事業者総合保険）

## 3. 企画部企画課

### (1) 法人主催行事

#### ①はぎの里敬老祝賀式

9月20日（金）10時～ 会場 第二ケアハウスはぎの里ホール

祝賀対象39名 参加20名

来賓 京都府南丹広域振興局副局長・南丹市長・南丹市社会福祉協議会長・  
南丹市高齢福祉課長

次第 祝品贈呈（新百歳4名・白寿5名・卒寿6名・米寿5名）と祝辞、記念撮影

#### ②はぎの里秋祭り中止

地域住民との交流を目的とした大規模行事は、感染リスクが高いため中止しました。

後援会からは、全会員へ中止のお知らせを送付しました。

### (2) 地域貢献

#### ①おれんじスポットひよし（認知症カフェ）企画運営送迎協力

（関係機関実行委員会形式）奇数月1回3名の送迎

（場所 いきいきオアシス日吉 コミュニティルーム

・日吉ダム・生畑なずなカフェ・胡麻郷小学校）

少人数制とし、1回3名を対象に開催

#### ②興風交流センターデイサービス事業企画送迎協力〔通称 田原なごみ会〕

（南丹市人権政策課・南丹市社協・はぎの里）

南丹市社協と役割分担し、迎えのみ月2回実施 毎月第1第3木曜

1回の迎えは、3～5名

6月20日送迎16名・アルプラザでボウリング

12月19日送迎14名・道の駅 味夢の里

#### ③「まちカフェサロン」まちカフェモーニングの会送迎協力（胡麻地域対象）

毎月第2日曜 10時～12時 1回の送迎は、4～7名程度

4月 花見ドライブ30名送迎

7月・8月・2月 送迎なし

④「ごまデイ」胡麻地域まちづくり協議会送迎協力

5月 外出・和知道の駅「和」 11名

11月 外出・日吉ダム周辺と道の駅スプリングスひよし 15名

⑤日吉「新町サロン」送迎協力

6月 外出・和知道の駅「和」 17名

⑥地域清掃活動

・特養正門前～遊 you ひよし間の歩道及び車道のゴミ拾い（毎月）

実施者 特別養護老人ホームはぎの里・老人保健施設はぎの里・

ケアハウスはぎの里・はぎの里ケアプランセンター 各職員

・横田区環境美化作業に参加（4月・8月・3月）

参加者 オアシス職員

⑦地域行事協力

・日吉 夕涼み会（実行委員）

祭り当日8月19日 要員3名とカラオケ貸出、翌日後片付け1名

・園部 横田区夏祭り

祭り当日8月19日 要員3名

・園部 横田区運動会 防災訓練（消防団による搬送とオアシスによる車いす体験）

10月6日 要員2名 車いす・スロープ貸出

⑧学校関係

・殿田中学校2年生・職業体験学習受入（デイサービス・通所リハビリ）

11月13日～15日 生徒4名

・殿田中学校1年生・人権学習「高齢者理解」講師派遣（通所リハビリ）

11月1日 場所：殿田中学校 生徒25名

・園部小学校4年生オンライン交流会（オアシス）

12月6日 オアシス食堂と学校をつなぐ（オレンジガーデニングプロジェクト）

(3) 令和6年度介護福祉士実務者研修通信通学課程（主催 三幸福祉カレッジ）

会場 南丹市国際交流会館 修了1名

主催者による受講料の法人割引適用

介護福祉士合格者1名

(4) はぎの里後援会事務局として

5月18日 監事監査・地域担当幹事会

6月23日 総会・南丹市日吉生涯学習センター遊 you ひよし2階会議室

・令和5年度 事業報告及び会計決算報告

・令和6年度 事業計画（案）及び会計予算書（案）

9月30日 はぎの里秋祭り中止のお知らせ 会員宛通知

2月12日 三役員会・老健家族介護教室

・法人への備品提供支援の協議

2月28日 法人への備品提供支援 スライドボード6台

#### 4. 企画部介護保険課

##### (1) 令和6年度介護報酬改定及び施設利用料金変更に伴う契約書等の変更

(基本報酬・各種加算等)

- ① 令和6年4月1日付、対象事業  
特養、デイサービス、老健、訪問介護、ケアプランセンター、小多機オアシス、  
ふれあいホーム、グループホーム、特養オアシス
- ② 令和6年6月1日付、対象事業  
通所リハビリ、訪問リハビリ

##### (2) 介護給付費算定に係る体制等に関する届出書について

- ① 令和6年4月1日付、高齢者虐待防止措置の有無、業務継続計画策定の有無、総合  
マネジメント体制強化加算、個別機能訓練加算等  
対象事業 特養、デイサービス、老健、訪問介護、小多機オアシス、ふれあいホーム、  
グループホーム、特養オアシス
- ② 令和6年6月1日付、介護職員等処遇改善加算の新規取得、高齢者虐待防止措置の有無、  
協力医療機関連携加算、運営規程の変更（利用料金の変更）  
対象事業 特養、老健、通所リハビリ、訪問介護、デイサービス、小多機オアシス、  
ふれあいホーム、グループホーム、特養オアシス、訪問リハビリ
- ③ 令和6年11月1日付、科学的介護推進体制加算
- ④ 令和6年4月、訪問型サービスにおける同一建物減算に係る計算書の半期毎の提出  
対象事業 訪問介護

##### (3) 指定内容の変更に関する届出について

- ① 令和6年4月1日付、運営規程・事業所の管理者・介護支援専門員の氏名等  
対象事業 特養、老健、訪問介護、デイサービス、ケアプランセンター、  
通所リハビリ、訪問リハビリ、小多機オアシス、ふれあいホーム、  
グループホーム、特養オアシス
- ② 令和6年6月1日付、運営規程（利用料金の変更）  
対象事業 デイサービス、通所リハビリ、訪問リハビリ
- ③ 令和6年10月1日付、運営規程・介護支援専門員の氏名  
対象事業 グループホーム

##### (4) 京都府による老人保健施設無料低額事業に係る調査の実施

- ・令和5年度の事業実施状況について資料による調査の結果、実施証明を受けました。  
事業期間更新 令和6年8月1日から令和7年7月31日

##### (5) 事業休止について

- ・(介護予防) 小規模多機能型居宅介護事業所はぎの里オアシス事業につきまして、登

録者確保に向け取り組んできましたが、事業継続必要な収支状況とならず、十分な職員配置ができないことから、令和6年9月末で休止としました。

#### (6) 事業種別の変更について

- ・令和6年10月1日付、はぎの里ふれあいホームの事業種別をサテライト型から単独事業に変更しました。

#### (7) 介護保険事業集団指導

- ・令和6年度京都府介護保険サービス事業者等に係る集団指導  
新型コロナウイルス感染防止のため京都府ホームページでの動画配信及び資料掲載による実施となりました。  
対象事業 特養、老健、通所リハビリ、訪問リハビリ、訪問介護
- ・令和6年度南丹市内地域密着型サービス事業所集団指導  
台風のため中止となり、南丹市ホームページ掲載の資料確認となりました。  
対象事業 デイサービス、特養オアシス、小多機オアシス、グループホーム、ふれあいホーム
- ・令和6年度南丹市内居宅介護支援事業所集団指導  
台風のため中止となり、南丹市ホームページ掲載の資料確認となりました。  
対象事業 ケアプランセンター

#### (8) 資格研修修了状況

- ・令和6年度京都府介護支援専門員更新研修  
課程Ⅱ 修了3名（老健2名・特養オアシス1名）  
主任 修了1名（ケアプランセンター）
- ・令和6年度京都府認知症介護実践者研修（人員要件研修）  
修了3名（グループホーム・老健・特養 各1名）
- ・令和6年度ユニットリーダー研修（人員要件研修）  
修了1名（特養1名）
- ・令和6年度京都府認知症介護基礎研修（無資格者の法定研修）  
修了3名（特養2名・特養オアシス1名）

#### (9) 介護保険事業指定更新

- ・はぎの里ふれあいホーム（小規模多機能型居宅介護）南丹市指定 4月18日
- ・小規模多機能型居宅介護事業所はぎの里オアシス 南丹市指定 12月1日
- ・特別養護老人ホームはぎの里オアシス 南丹市指定 12月1日
- ・認知症対応型共同生活介護事業所はぎの里オアシス 南丹市指定 12月1日

### Ⅲ. 事業部技術専門室

#### 1. 介護部

##### (1) 介護職員としての知識技術向上

感染症の影響により、全体研修会や各事業所における研修会への相互参加は実施できませんでした。毎月開催している介護部会議内において、生産性向上の取り組みを進めていけるようにICT機器活用に向けた検討を行いました。

##### (2) 各種関係機関との連携による人材確保により、効果的な介護職員の採用

インターネット媒体での求人や知人の紹介等により幅広く視野を広げた求人活動を行いましたが、フルタイム職員獲得に至らず効果的な採用には至りませんでした。

##### (3) 離職防止・働き方改革への対応

毎月、各事業所チーフ（1号館・2号館・オアシス各担当）3名、マネージャー、計4名にて人員状況の情報共有とともに、人事に関する検討会議を実施しました。管理職会議と連携し法人内での人員体制を把握し、効率的な人員配置をおこなうよう、人事異動や兼務を実施しました。

#### 2. 看護部

##### (1) 人材確保・定着に向けた取り組み

慢性的な看護師不足が続いており、看護協会や人材紹介会社等との連携のもと、人材確保に取り組みました。

今後は、職員の定着に向け、各自が互いの考えを認め、チームの目標を共有することで働きやすい職場づくりを行います。

さらに他職種連携のもと効率のよいチームケアをすすめるには、専門職としてリーダーシップが取れる職員の配置が必要ですが現在配置はできていません。今後、人材の確保に取り組むとともにリーダーの育成に努めます。

##### (2) 研修会の開催

専門職としての自覚を高め、利用者の多様な健康ニーズに対応するためには幅広い知識、技術の習得が求められますが、今年度も全体での研修の開催は見送り、自主的な学習にとどまりました。専門看護師を招いての研修の希望があることから、今後、感染状況を把握しながら実施に向けて取り組みます。

### 3. 相談支援部

#### (1) サービスの質の向上

指導職会議では、事業所内の相談支援部の横の繋がり的重要性や課題を共有し検討しました。また、ご利用者の支援の在り方についても悩みを共有する場にもなりました。

全体会は一人一人が話すこと、聞くことを実践しながら楽しく学びました。参加した職員も専門性を高めたいと意欲があり、学べる機会も設けていきたいと考えています。今後も専門職として知識や技術を充填できるよう努めていきます。

#### (2) 効率的な運営について

相談支援部内の課題として、施設入所申込の減少や稼働率の伸び悩みがあります。稼働率向上のため申込から利用まで迅速な対応を心がけました。利用者獲得に向けては事業所等に対し積極的な案内を行いました。

今後も効率的な運営について知恵を出し合い、各事業所の運営に貢献できればと考えます。

### 4. 研修担当部

#### (1) 法人職員基礎（新人）研修

5月10日・7月12日の2日間 受講者8名

会場 老人保健施設家族介護教室・特別養護老人ホーム研修室

研修内容 法人の概要及び組織・理念・方針 他14講義

#### (2) 指導職対象研修

インターネット研修

9つの講義から選択受講

ストレスをため込まないスキル・業務改善・信頼関係構築など

研修期間 1月8日～3月21日 受講者8名

#### (3) 中堅職員研修

インターネット研修

介護従事者の「気づき」の力を高める研修

研修期間 10月5日～3月6日 受講者5名

#### (4) メンタルヘルス研修

11月21日 受講者28名 会場 通所リハビリホール

研修テーマ カスタマーハラスメント対策・臨床心理学の視点から

講師 京都府臨床心理士会 黒澤良輔 氏

補助事業 京都府職場のメンタルヘルス等向上事業

## (5) 虐待防止研修

2月14日 受講者24名 会場：通所リハビリホール  
研修テーマ 日常の支援は利用者にとって適切ですか。  
講師 京都保育福祉専門学院 副学院長 岡本匡弘 氏

## (6) インターネット配信研修（お茶の水ケアサービス学院・ユーチューブ他）

### 実施状況

各事業所単位で研修計画を立て受講

4月34名、5月20名、6月19名、7月14名、8月49名、  
9月23名、10月70名、11月50名、12月55名、1月57名、  
2月55名、3月47名

※お茶の水ケアサービス学院研修は下記講義から選択

専門研修フルバージョン171講義

15分研修シリーズ 214講義（フルバージョンの一部）

15分情報公表対応編 102講義

30分研修シリーズ 246講義・介護塾45講義

アーカイブ配信研修 188講義

## (7) 資格取得支援

### ①介護支援専門員実務研修受講試験対策勉強会

参加者5名 全6回で5月から月1回開催  
合格者2名（内1名本勉強会参加者）

### ②介護福祉士受験対策

受験者個別対応で、希望者には参考書・受験対策講座斡旋など  
対象 2名（概数）

## (8) 研修担当部会議 月1回開催

①年間研修計画の策定検討について

②令和6年度法人内事業所単位研修会（勉強会）年間計画【予定】を配布  
研修計画の共有により、事業所間で相互に受講できる仕組み

③新規採用者対象法人基礎研修の実施について

④指導職対象研修・中堅職員対象研修について

⑤虐待防止研修について

⑥認知症介護基礎研修の計画的受講・認知症介護実践者研修の計画的受講について

⑦介護支援専門員実務研修受講試験対策勉強会について

⑧外部研修案内の周知について

⑨メンタルヘルス研修について

⑩法人内事業所サービス評価計画について 各事業所6カ月毎の評価

## ⑪きょうと福祉人材育成認証制度について

### (9) サービス評価の継続実施について

- ・定期的に利用者サービスが適切かを意識した運営となるように、法人の理念に始まり、職員倫理綱領に基づいた各事業のサービスが提供されているかを確認するために組織的に取り組むことを目的としています。
- ・評価委員は、管理職・指導職・総合職の3名体制とし、評価対象事業所属以外で選任しました。
- ・サービス評価チェックリストに基づくヒアリング・根拠資料・記録などの確認をもとに評価を行い、結果に委員コメントを記載することで今後の運営に活かします。

実施回数 原則6カ月毎（チェックリスト改定）

第1回 9月17日 対象事業所 日吉特養

第2回 3月13日 対象事業所 ケアハウス・第二ケアハウス

人員体制から全事業所での実施には至りませんでした。

#### IV. 特別養護老人ホームの経営

##### (1) 利用実績

①指定介護老人福祉施設（長期入所）定員50名

単位：人

|         |      |      |      |      |      |      |      |
|---------|------|------|------|------|------|------|------|
|         | 4月   | 5月   | 6月   | 7月   | 8月   | 9月   |      |
| 月平均入所者数 | 48.5 | 47.7 | 45.8 | 46.2 | 46.6 | 47.4 |      |
|         | 10月  | 11月  | 12月  | 1月   | 2月   | 3月   | 計    |
| 月平均入所者数 | 47.6 | 46.5 | 46.5 | 43.3 | 43.6 | 44.0 | 46.2 |

②短期入所者生活介護（ショートステイ）定員10名

単位：人

|          |     |     |     |     |     |     |       |
|----------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
|          | 4月  | 5月  | 6月  | 7月  | 8月  | 9月  |       |
| 延利用者数    | 271 | 236 | 232 | 240 | 267 | 279 |       |
| 1日平均利用者数 | 9.0 | 7.6 | 7.7 | 7.7 | 8.6 | 9.3 |       |
|          | 10月 | 11月 | 12月 | 1月  | 2月  | 3月  | 計     |
| 延利用者数    | 285 | 264 | 239 | 246 | 266 | 258 | 3,090 |
| 1日平均利用者数 | 9.2 | 8.8 | 7.7 | 7.9 | 9.5 | 8.5 | 8.5   |

③長期入退所状況

|        |    |    |    |    |       |    |     |
|--------|----|----|----|----|-------|----|-----|
|        | 在宅 | 病院 | 特養 | 老健 | ケアハウス | 死去 | その他 |
| 入所前の所在 | 14 | 4  | 0  | 5  | 1     | 0  | 0   |
| 退所先    | 0  | 5  | 0  | 0  | 0     | 22 | 0   |

(2) 実習・その他受け入れ状況

受入れなし

(3) ボランティア等受け入れ状況

受入れなし

(4) サービスの質

今年度は、入所事業に感染症の影響を受けることはありませんでしたが、基本的な感染症対策は継続する中での運営となりました。

職員体制も厳しい中での運営となりましたが、日々の介護においては、介護計画をもとに優先順位を付け、多職種が連携し介護の提供に取り組みました。

前年度に続き、特に入浴の機会の確保（清潔保持）や、入所者の状態に合わせた介護用品の選定、食事形態などの検討を行いました。

機能訓練では、機能訓練指導員を中心に個別の計画をもとに、車いす使用時のポジショニング、可動域訓練や平行棒リハビリなどを実施しました。必要に応じ、老朽化した車いすやエアマットを順次更新しています。

面会については、感染症対策として基本決められた場所での実施としましたが、ご本

人の状態に合わせ、個室面会を実施しました。

次年度は、感染症対策の見直しに合わせ、外出の機会を計画したいと考えています。

## (5) 安定した収入確保

令和6年度の年間実績は、月平均55.3名（長期入所46.2名、短期入所8.5名）、稼働率は92.1%となり、目標（1日平均58名・稼働率96%）を下回る結果となりました。

令和6年度は27名の退所と24名の入所がありました。

特養では、要介護度3以上が入所対象となっていることと、医療が必要となるケースが増えており、平均入所期間も短くなっています。

収入確保については、待機者の確保とベッドコントロールの調整が重要となります。空床発生時には短期間で長期入所となるよう調整しましたが、待機者が少なく入院者が多いため、空床期間が長期化することもありました。また、短期入所ご利用者が長期入所となられることも多くなり、短期入所の利用が年間平均で定員を下回っており、入院者の空床利用も出来ない状況です。法人内・関係機関への情報提供を行い待機者確保につなげます。

支出では、優先順位を付け支出を行ったほか、光熱費への支出減に向け、節電機器の設置、空調機器・照明器具の使用で、節約に取り組みました。車イスやエアマットなどの備品更新への支出が中心となりました。

次年度についても、まず収入確保に向けたベッドコントロールを確実に行うこと、支出では収支を見ながら優先順位を付けた予算執行を徹底します。

また、これまで以上に法人内外の関係機関や近隣施設との情報交換を行い待機者確保に努めます。

## (6) 職員の資質向上

令和6年度も、年間計画をもとに特養会議内で研修を行いました。

感染症については、1号館全事業所で対策委員会を開催し、同一建物であるデイサービスやケアハウス、事務室と連携して対応策や物品保管などを共有しました。

インターネット研修も年々内容が充実しており、研修の場で使用しましたが、自発的な個人での学びが少なかったことが反省点です。

機能訓練指導員は、法人リハビリテーション部を通じて、他事業所へ学びを目的に出向く機会を設け、特養での機能訓練の充実につなげました。

令和6年度より、南丹市からの介護相談員の訪問を再開しました。コロナ禍以降、外部からの訪問者がありませんでしたので、様々な意味で刺激を受けました。また訪問時にはコメントを頂き、各部署に回覧し情報を共有しています。

## (7) 地域貢献

令和6年もボランティア、実習生の受け入れはありませんでした。

地域貢献による取り組みとして、施設周辺の清掃活動をボランティアで9回実施しました。

## V. 老人保健施設の経営

### (1) 利用実績

①介護老人保健施設（長期入所）定員100名

単位：人

|         |      |      |      |      |      |      |      |
|---------|------|------|------|------|------|------|------|
|         | 4月   | 5月   | 6月   | 7月   | 8月   | 9月   |      |
| 月平均入所者数 | 84.5 | 83.3 | 82.8 | 82.5 | 82.5 | 84.2 |      |
|         | 10月  | 11月  | 12月  | 1月   | 2月   | 3月   | 計    |
| 月平均入所者数 | 82.5 | 83.3 | 81.1 | 80.5 | 81.1 | 79.8 | 82.4 |

②短期入所療養介護(ショートステイ)長期空床型

単位：人

|          |     |     |     |     |     |     |     |
|----------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
|          | 4月  | 5月  | 6月  | 7月  | 8月  | 9月  |     |
| 延利用者数    | 36  | 33  | 17  | 17  | 42  | 59  |     |
| 1日平均利用者数 | 1.2 | 1.1 | 0.6 | 0.5 | 1.4 | 2.0 |     |
|          | 10月 | 11月 | 12月 | 1月  | 2月  | 3月  | 計   |
| 延利用者数    | 35  | 51  | 36  | 49  | 50  | 20  | 467 |
| 1日平均利用者数 | 1.1 | 1.7 | 1.2 | 1.6 | 1.8 | 0.6 | 1.3 |

③長期入退所状況

|        |    |    |    |    |       |    |     |
|--------|----|----|----|----|-------|----|-----|
|        | 在宅 | 病院 | 特養 | 老健 | ケアハウス | 死去 | その他 |
| 入所前の所在 | 10 | 54 | 0  | 0  | 2     | 0  | 1   |
| 退所先    | 4  | 49 | 14 | 0  | 1     | 3  | 4   |

### (2) 実習・その他受け入れ状況

受け入れなし

### (3) ボランティア等受け入れ状況

受け入れなし

### (4) サービスの質

感染症の影響により、4月初旬から5月下旬においてコロナウイルス、9月にインフルエンザにおける集団感染が発生しましたが、重症化される方はなく収束することが出来ました。

その他においても、面会や行事を制限する必要があるため、ご利用者の生活に大きな支障をきたしました。その中で、出来る限りご利用者やご家族の声を傾聴し、生活支援を行いました。面会に関しては、希望される方が多く、1階に面会スペースを設置し、対面面会を実施しました。日々の様子や体調の変化は、3か月に1回近況報告の書面を作成しご家族へ報告しました。

介護職の取り組みとしては、ご利用者と日々の関わりを深めることにより信頼関係構

築に努めました。月に1度はご利用者が楽しめる行事を実施出来るように努め、ご利用者の希望を参考に各種行事（花や野菜の苗植え・七夕飾り・夏祭り・敬老祝賀会・運動会・クリスマス会、節分行事）や食に関わるイベント（屋台たこ焼き、お茶会、デザートバイキング）を実施しました。

医療の取り組みとしては、入所受入時の抗原定性検査の実施や日常における感染対策の徹底、日々ご利用者の観察を意図的に行い情報共有することで体調の変化に気づき、早期の対応ができるようチームで取り組みました。感染症発生時はご利用者の体調観察を徹底し、重症化予防に努めました。

リハビリの取り組みとしては、ご利用者の「できること」を磨いたり、増やすことができるように、ご利用者個々の目標や日常生活の様子を踏まえた上でアプローチを行いました。そして多職種で協働し、ご利用者個々の能力を発揮できる環境作りや安全面を考慮した環境作りを行いました。またメリハリのある充実した日常生活にするため、集団体操や作業活動を行いました。短期集中リハビリテーション加算、リハビリテーションマネジメント計画情報加算、個別リハビリテーション実施加算を算定しました。

栄養の取り組みとしては、地元のお米や野菜を使用し季節感のある食事の提供に努めました。物価が高騰する中、出来るだけ食事の質を落とさない様に工夫を凝らしながら食事の提供に努めました。また、食事の観察や多職種との情報交換を実施し、ご利用者の栄養状態、嚥下状態、嗜好などを踏まえた食事の調整を行いました。

## （5）安定した収入の確保

年間の利用実績は、長期短期合わせて1日平均83.6名（前年度比-4.4名）で目標（95名）を達成することが出来ませんでした。要因としては、体調不良による入院者の増加やご利用者のコロナ、インフルエンザ感染による新規受け入れ中止が一定期間あり、厳しい結果となりました。短期入所療養介護については、1日平均1.2名（前年度比-0.1名）の利用があり、昨年度と変化は見られませんでした。

また、本来の老健の役割である在宅復帰に向けた取り組みは、在宅復帰・在宅療養支援機能に対する点数を40点以上確保することができ、在宅復帰・在宅療養支援機能加算の算定を継続することが出来ました（1ヶ月約90万円の収入増となります）。加算算定を継続していくために、在宅復帰者の確保、入所退所件数等の確保に努めました。

## （6）職員の資質向上

昨年度と同様に老健会議内において月1回研修を実施しました。研修内容は、動画研修を取り入れ当日参加できなかった職員についても同様の動画を視聴できる環境を整え、多数の職員が学びの機会を得ることができました。

また、年間を通じて、接遇とケアスキルの勉強会に取り組みました。接遇については「言葉遣い」をテーマに強化活動を行いました。ケアスキルについては「排泄ケア」をテーマに株式会社リブドゥコーポレーションへ講師を依頼し協力を得ながら活動を行いました。

## （7）地域貢献

地域貢献による取り組みとして、施設周辺の清掃活動をボランティアで9回実施しました。

## VI. ケアハウスの経営

### (1) 利用実績

①ケアハウス入居状況 定員25名（1人居室11室・2人居室7室） 単位：人

|        | 4月  | 5月  | 6月  | 7月 | 8月 | 9月 |     |
|--------|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
| 月初入所者数 | 21  | 21  | 21  | 21 | 20 | 19 |     |
|        | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計   |
| 月初入所者数 | 19  | 19  | 19  | 19 | 19 | 18 | 236 |

②ケアハウス入退居状況

|        | 在宅 | 病院 | 特養 | 老健 | ケアハウス | 死去 | その他 |
|--------|----|----|----|----|-------|----|-----|
| 入所前の所在 | 1  |    |    | 1  |       |    |     |
| 退所先    |    | 3  | 1  | 1  |       |    |     |

③第二ケアハウス入居状況 定員32名（1人居室26室・2人居室3室） 単位：人

|        | 4月  | 5月  | 6月  | 7月 | 8月 | 9月 |     |
|--------|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
| 月初入所者数 | 26  | 26  | 28  | 27 | 27 | 28 |     |
|        | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計   |
| 月初入所者数 | 28  | 28  | 29  | 28 | 28 | 29 | 332 |

④第二ケアハウス入退居状況

|        | 在宅 | 病院 | 特養 | 老健 | ケアハウス | 死去 | その他 |
|--------|----|----|----|----|-------|----|-----|
| 入所前の所在 | 5  | 3  |    |    |       |    |     |
| 退所先    |    | 2  | 1  | 2  |       | 2  |     |

### (2) ボランティア等受け入れ状況

感染症予防対策の為、受け入れはありませんでした。

### (3) 安心して自立生活できる“住まい”としてのケアハウス

目配り、気配り、心配りで、日常の関わりからご利用者の体調把握に務めました。早めの対応を心掛け、ご家族との連携にも努めました。

ご利用者の超高齢化、介護の重度化がみられることから、担当ケアマネジャーとの連携を強化して、状況に応じた介護サービスの調整をご利用者・ご家族の意向も踏まえて行いました。

ご利用者の自活力”（自立して生活できる能力）の維持のために、ご自身のことはご自身でできるように声掛けを継続し、そのような声掛けをする理由の丁寧な説明に取り

組みました。

心身ともに介護が必要となっておられるご利用者に対し、次の居場所に向けての相談支援を行なうと同時に、必要な身体介護（排泄対応、入浴対応、食事対応）をケアハウス職員が行い、日々の生活を支援するケースもありました。

ご利用者の平均年齢が上がり、医療ニーズも高まっており、今後も目配り、気配り、心配りを基にした気付きで医療連携も強化していきます。

#### **(4) サービスの質**

言葉遣いやご利用者に対する態度が適切かどうか、虐待及び身体拘束等防止の観点から月1回のケアハウス会議での振り返りを継続しました。“自活力”の維持を目標とした声掛け支援を行なうことで、ご利用者に対して威圧的に感じられる可能性が高まることから、日常の言葉遣いについて、職員個々が細心の注意を払うように努めました。

職員同士での意見交換を行ない、ご利用者のケアハウスでの暮らしが支えられるように努めました。職員一人で勤務する時間が多いため、気付きを共有できるように引き続き意見交換を重視し、サービスの質の向上に努めていきたいと考えます。

#### **(5) 安定した収入の確保**

ご利用者のケアハウスでの様子をご家族にお伝えするケアハウス通信を年間計画通りに発行し、情報の発信に努めました。

入居相談の経路としては、担当ケアマネジャー、病院の地域連携室からの紹介、法人内事業所からの紹介が多くを占めています。入居待機者の確保のために、入居相談には丁寧に応じるように努め、必要な情報収集を行ない、どのようにすればご入居後に安心した生活を過ごしていただけるのかの視点で取り組みました。

ケアハウスは空室1室（2人部屋）、第二ケアハウスに空室が2室ある状況です。今後も、空室が出て来ると見込まれるため、早期の入居につなげられるように努めていきます。

#### **(6) 職員の資質向上**

インターネット配信を活用した研修をケアハウス会議に合わせて取り組み、資質向上に努めました。

#### **(7) 地域貢献**

地域貢献による取り組みとして、施設周辺の清掃活動をボランティアで9回実施しました。

## Ⅶ. 在宅関係事業

### 1. 通所リハビリテーション

(1) 利用実績 利用定員30名

単位：人

|        | 4月   | 5月   | 6月   | 7月   | 8月   | 9月   |       |
|--------|------|------|------|------|------|------|-------|
| 延べ人数   | 601  | 654  | 574  | 606  | 534  | 549  |       |
| 1日平均   | 23.1 | 24.2 | 23.0 | 22.4 | 19.8 | 22.0 |       |
| 稼働率(%) | 77.1 | 80.7 | 76.5 | 74.8 | 65.9 | 73.2 |       |
|        | 10月  | 11月  | 12月  | 1月   | 2月   | 3月   | 計     |
| 延べ人数   | 651  | 604  | 583  | 553  | 506  | 609  | 6,450 |
| 1日平均   | 24.1 | 23.2 | 22.4 | 23.0 | 21.1 | 23.4 | 22.7  |
| 稼働率(%) | 80.4 | 77.4 | 74.7 | 76.8 | 70.3 | 78.1 | 75.5  |

(2) 実習・その他受け入れ状況

| 学校・実習名          | 期 間            | 延べ人数(実人数) |
|-----------------|----------------|-----------|
| 明治国際医療大学 柔道整復学科 | 令和6年4月～7月      | 101名      |
| 明治国際医療大学 鍼灸学科   | 令和6年5月～7月      | 42名       |
| 明治国際医療大学 看護学部   | 令和6年7月         | 32名       |
| 殿田中学校 職場体験学習    | 令和6年11月13日～15日 | 2名        |
|                 |                | 177名      |

(3) ボランティア等受け入れ状況

| 名 称       | 活動内容 | 月 日    | 延べ人数 |
|-----------|------|--------|------|
| 紙芝居ボランティア | 紙芝居  | 11月29日 | 1名   |
|           |      |        | 1名   |

(4) サービスの質

感染症の影響で運営内容に制限がありましたが、予防対策を徹底し、ご利用者に安心して楽しんでいただける内容を日々検討し取り組みました。

外出を伴う「誕生日会」や「外食会」の実施ができないため、誕生日会は施設内でケーキの提供を行い、手作りの色紙と記念写真の撮影を行い、ご利用者と一緒にお祝いをしました。外食会の代替としてお弁当を注文し、普段と違った雰囲気を楽しんでいただきました。

レクリエーションについては、三密を避けるためにご利用者同士が一定の距離を保った状態で実施しました。カラオケ機器(DAM)のレクリエーションや体操を活用し、ご利用者満足に努めました。オンラインレクリエーションに参加したり、月替わりの行

事等でレクリエーションを取り組みました。

ご利用者ご家族の声に耳を傾け、安心してご利用いただけるようにサービスの改善に努めました。

また、サービス担当者会議や、退院時カンファレンスに積極的に参加し、ご利用者、ご家族、担当ケアマネジャーとの情報交換や交流を図り信頼関係の構築に努めました。

## (5) 安定した収入の確保

感染症による影響や体調不良、自己都合での欠席、入院者の増加等により、上半期の稼働率は74.7%（1日平均22.4人）となり、下半期も、利用中止や入院等による長期欠席が増え、1年間通して稼働率は75.5%（1日平均22.7名）となり、目標の稼働率83%（1日平均25名）には届きませんでした。

各事業所のケアマネジャーに利用空き情報を積極的に伝え、新規利用者の獲得や増回、臨時利用の促しを行い、稼働率の安定及びご利用者の継続した利用に繋げました。

コスト削減については、節電や節水、ペーパーレスに取り組みました。

## (6) 職員の資質向上

昨年度と同様に老健会議内において月1回研修を実施しました。研修内容は、動画配信サイトの動画を活用しました。当日参加できなかった職員についても同様の動画を視聴できる環境を整え、多数の職員が学びの機会を得ることができました。2月には外部の講師による排泄物品の講習会を開催しました。

スタッフ会議を毎月開催し、職員間の情報交換、検討事項、共有すべき内容を確認し、資質向上に努めました。

## (7) 地域貢献

明治国際医療大学の実習生や殿田中学校の職場体験学習を受け入れました。

また、殿田中学校へ職員が講師として出向き、認知症の勉強会を開催しました。

## 2. 訪問リハビリテーション

### (1) 利用実績

|       | 4月  | 5月  | 6月  | 7月 | 8月 | 9月 |     |
|-------|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
| 利用実人数 | 8   | 6   | 4   | 4  | 4  | 4  |     |
| 介護給付  | 7   | 5   | 3   | 3  | 3  | 4  |     |
| 介護予防  | 1   | 1   | 1   | 1  | 1  | 0  |     |
| 訪問延回数 | 28  | 23  | 18  | 20 | 21 | 22 |     |
|       | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 総合計 |
| 利用実人数 | 5   | 5   | 5   | 5  | 6  | 5  | 61  |
| 介護給付  | 5   | 5   | 5   | 5  | 5  | 4  | 54  |

|       |    |    |    |    |    |    |     |
|-------|----|----|----|----|----|----|-----|
| 介護予防  | 0  | 0  | 0  | 0  | 1  | 1  | 7   |
| 訪問延回数 | 21 | 23 | 21 | 19 | 13 | 18 | 247 |

## (2) サービスの質

身体機能・ADLの向上により訪問リハビリ利用を終了されるケースが数件みられましたが、多くのご利用者は継続利用を希望されました。身体機能の維持・向上を目的に多様なアプローチで満足いただけるように努めました。居宅ケアマネジャーや通所サービスとの連携により、一貫したサービス提供を実施しました。

## (3) 安定した収入の確保

今年度は人員体制の確保が困難であり、新規利用者の積極的な獲得ができませんでした。通所リハビリとの調整もあり、訪問時間枠の確保が難しく、5～6件の登録件数となりました。人員体制の構築とともに、新規利用者の受け入れ体制の整備に課題を残しました。

## (4) 職員の資質向上

老健主催の施設内研修、法人研修およびインターネット研修に参加し、知識向上に努めました。また、南丹地域の通所部会などの研修にも参加し、知識の向上とともに、関係各所との交流・意見交換を行うことができました。

## (5) 地域貢献

在宅での生活を継続できるよう、ご利用者の身体機能だけでなく、介護者のケアも含めて援助できるよう努めました。

# 3. 訪問介護事業

## (1) 利用実績

|       | 4月  | 5月  | 6月  | 7月  | 8月  | 9月  |       |
|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 利用実人数 | 21  | 21  | 16  | 18  | 18  | 19  |       |
| 訪問延回数 | 157 | 161 | 115 | 126 | 138 | 143 |       |
| 介護給付  | 124 | 126 | 100 | 95  | 107 | 113 |       |
| 介護予防  | 33  | 35  | 15  | 31  | 31  | 30  |       |
|       | 10月 | 11月 | 12月 | 1月  | 2月  | 3月  |       |
| 利用実人数 | 21  | 20  | 22  | 20  | 20  | 19  | 235   |
| 訪問延回数 | 159 | 144 | 151 | 143 | 120 | 129 | 1,686 |
| 介護給付  | 129 | 114 | 121 | 113 | 84  | 86  | 1,195 |
| 介護予防  | 30  | 30  | 30  | 30  | 36  | 43  | 374   |

## (2) サービスの質

少人数の体制でケアハウス中心にサービス提供が円滑に効率よくできるように日々努力しました。

ご利用者の予定に応じて、訪問曜日や時間の変更等の調整をさせて頂くことで少人数体制での事業運営が出来るように努めています。

またご利用者の生活様式や身体状況を十分に把握することに努め、必要時には担当介護支援専門員にケアプラン内容の変更を提案するなどご利用者の自立支援に努めました。

職員の資質向上が直接サービスに影響することから、学びを継続しつつ、ご利用者へは親切・丁寧なサービス提供ができるように今後も努めていきます。

さらに、令和7年2月からは、介護保険外の自費サービスとして、医療機関の通院の付添いサービスを実施することになり、ご利用者、ご家族に寄り添ったサービスの提供に努めていきます。

### (3) 安定した収入の確保

常勤職員と他事業所との兼務の職員により合計勤務時間400時間、常勤換算2.5名を確保して効率的な事業運営に努めました。

### (4) 職員の資質向上

ヘルパー会議での討議や、法人のインターネット研修、外部講師による研修を利用することで各職員の知識・介護技術の向上に努めていますが、十分な成果を上げることはできていない状況です。

報告・連絡・相談をしっかりと行い、職員間に情報や技術の差が生じないように努めていきます。

### (5) 地域貢献

住み慣れた居場所でその人らしい在宅生活が維持出来るように、各機関と十分に連携を取りながら、今後も質の高い訪問介護サービスを提供していきます。

## 4. 居宅介護支援事業(はぎの里ケアプランセンター)

### (1) 年間計画作成件数

|          |     |     |     |    |    |    |     |
|----------|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
|          | 4月  | 5月  | 6月  | 7月 | 8月 | 9月 |     |
| 居宅介護支援件数 | 76  | 77  | 76  | 75 | 78 | 78 |     |
| 前年度比     | +1  | 0   | -8  | -8 | -6 | -5 |     |
| 介護予防支援件数 | 32  | 34  | 35  | 34 | 36 | 35 |     |
| 前年度比     | -5  | -3  | -1  | -2 | +3 | 0  |     |
|          | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計   |
| 居宅介護支援件数 | 83  | 79  | 81  | 75 | 73 | 75 | 926 |
| 前年度比     | 0   | 0   | +2  | -3 | -5 | +1 | -31 |

|          |    |    |    |    |    |    |     |
|----------|----|----|----|----|----|----|-----|
| 介護予防支援件数 | 35 | 34 | 32 | 33 | 33 | 35 | 410 |
| 前年度比     | 0  | 0  | -1 | -1 | 0  | +3 | -6  |

## (2) サービスの質

今年度は介護保険報酬改定がありました。それに伴う内容の理解に努め、ご利用者やご家族に混乱を招くことなく説明するよう努めました。

毎月の事業所会議では運営基準減算を意識し、各自のケアマネジメント作業を確認しあい法令遵守に努めてきました。

また、利用者満足度調査を実施し、振り返りを行いサービスの質の向上に努めました。

## (3) 安定した収入の確保

報酬改定で基本報酬はやや上がりましたが、同一建物減算が開始となり、担当させていただいているご利用者の一定数が併設のケアハウスのご利用者のためトータル的には報酬減となっています。その中でも、取得可能な加算が算定できるように努めました。

多様なニーズを抱えておられるご利用者一人当たりにかかる支援時間や移動時間を考え、適切な居宅支援事業を提供できる範囲で運営に努めていきます。

## (4) 職員の資質向上

年間を通じ毎月の事業所会議で専門性を高める研修を実施しました。

また、南丹市ケアマネ連絡会や日吉事業所の事例検討会、外部研修にも積極的に参加し、事業所の枠を超えて専門職として必要な学びを得ることができました。

## (5) 地域貢献

地域貢献として、月1回施設周辺の美化作業に参加しました。

また、認知症カフェの企画や送迎等の運営協力を行いました。

介護支援専門員として日々の実践の中で、地域の課題を捉え、包括支援センター等と共有し課題解決に向けて検討を重ねることや提言していくことも地域貢献だと考えます。引き続き、実践の中で気づきを得られる力も養えるよう努めます。

## VIII. 地域密着型サービス

### 1. デイサービスセンター

(1) 利用実績 利用定員18名

単位：人

|        | 4月   | 5月    | 6月   | 7月   | 8月   | 9月   |       |
|--------|------|-------|------|------|------|------|-------|
| 延べ人数   | 465  | 486   | 444  | 446  | 428  | 424  |       |
| 1日平均   | 17.9 | 18.0  | 17.8 | 16.5 | 16.5 | 16.3 |       |
| 稼働率(%) | 99.4 | 100.0 | 98.7 | 91.8 | 91.5 | 90.6 |       |
|        | 10月  | 11月   | 12月  | 1月   | 2月   | 3月   | 計     |
| 延べ人数   | 457  | 442   | 475  | 409  | 384  | 422  | 5,282 |
| 1日平均   | 16.9 | 17.7  | 17.6 | 17.0 | 16.0 | 16.2 | 17.0  |
| 稼働率(%) | 94.0 | 98.2  | 97.7 | 94.7 | 88.9 | 90.2 | 94.7  |

(2) 実習・その他受け入れ状況

| 学校・実習名          | 期 間            | 延べ人数(実人数) |
|-----------------|----------------|-----------|
| 明治国際医療大学 柔道整復学科 | 令和6年4月～7月      | 101名      |
| 明治国際医療大学 鍼灸学科   | 令和6年5月～7月      | 42名       |
| 明治国際医療大学 看護学部   | 令和6年7月         | 32名       |
| 殿田中学校 職場体験学習    | 令和6年11月13日～15日 | 2名        |
|                 |                | 177名      |

(3) ボランティア等受け入れ状況

受け入れなし

(4) サービスの質

ご利用者個々に合った介護計画の作成を心がけ、介護職を中心に看護職・機能訓練指導員で連携し、ご利用される目的（入浴や交流など）を職員間で把握し、必要な支援を行いました。

ご利用者からご要望がありました前腕支持型歩行器を追加購入し、ご利用者にあったタイプを使用して頂けるようになりました。

機能訓練（リハビリ）はご利用者ご家族から好評価を得ており、デイサービスの特色となっています。ご利用者に合わせたコミュニケーションを取りながら実施しました。

行事では、外へ出る機会を多く作り、数回のお花見ドライブに出かけました。季節の花（桜・紫陽花・蓮の花）や、秋の紅葉時期には京丹波・亀岡方面へドライブに出かけました。また、敷地内散歩も積極的に行いました。

誕生日会の外食は実施出来ませんでしたが、事業所内で毎月ケーキと記念品として色紙と職員手作りのネームキーホルダーを作製してお渡ししました。ご利用時の鞆等に取り付けてお使い頂いています。

今年度も2ヶ月に1回、事業所独自の機関紙「輪（わっか）」を発行し、行事やご利用中の様子を掲載しご家族にお伝えしました。

次年度は、事業所の壁紙・1部模様替えを計画します。

## (5) 安定した収入の確保

収支は昨年度より収入減、支出増となりましたが、年間収支はプラスでした。

事業実績は、1日平均17.0人(前年度比-0.5)人、稼働率94.7%(-2.6%)となり前年度実績を下回りましたが、1日当たりのご利用者人数は目標達成(目標:平均17人以上稼働率97%以上)することが出来ました。

今年度は、2月の積雪の影響を受け、営業中止と時間短縮営業となった日がありました。また下半期は、ご逝去・自己都合・施設入所が続き登録者が減少しましたが、登録者確保に向け、振替調整と事業所のパンフレットと機関紙も活用して空き状況を周知したことで、新規利用者が獲得出来ました。

収入では、介護給付の収入が減り、予防給付の比率が(+20.3%)上昇しており、収入に影響が出ています。

上半期に浴室用大型ガス給湯器(2台)・下半期には、床暖房の故障で、修繕へ支出がありました。コスト削減に向けては、年間を通して燃料・光熱費を節約しコスト削減に努めました。

## (6) 職員の資質向上

日々業務の振り返りを行い、即改善につなげる取り組みを実施しています。デイサービスにおいて有効な取り組みであるため今後も資質向上につなげる取り組みとして継続したいと考えています。

毎月の職員会議では、年間研修計画を基に担当職員が資料作成から当日の研修までを担当する形で実施しました。法人主催の研修(メンタルヘルス・虐待防止事故防止)や特別養護老人ホームの研修(身体拘束・不適切ケア・虐待防止)と1号館感染症委員会に参加し、感染症発症時の検討・感染予防・食中毒予防・疥癬対応マニュアル作成を行い感染症発生時の対応の統一やデイサービスにおける蔓延予防策などを学びました。

施設外研修では、なんたん通所サービス部会に参加しました。

インターネット研修を勉強会などで活用し、資質向上につなげました。

## (7) 地域貢献

今年度も運営推進会議(2回)と家族交流会を開催し、デイサービスの取り組みの報告と、画像を用いてご利用中の様子をお伝えしました。ご参加頂いたご家族・地域団体の代表の方々からご意見と感想を頂くことが出来ました。家族交流会では、直接参加とオンラインで選択してご参加頂ける方法で開催しました。

下半期には、地域ケア推進会議に出席しました。

実習は、将来の仕事の選択肢に介護の仕事が選ばれる期待も込め受け入れを行いました。明治国際医療大学の实習では、在宅で生活されているご利用者とのコミュニケーションを中心に実習して頂きました。

また、殿田中学校職場体験学習として、2名の生徒の受け入れを行いました。

## 2. ふれあいホーム

(1) 利用実績 登録定員25名(通い10名・泊まり3名) 単位：人

|      | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 登録者数 | 2  | 2  | 2  | 2  | 4  | 4  | 5   | 4   | 4   | 4  | 4  | 5  |

(2) 実習・その他受け入れ状況

受け入れなし

(3) ボランティア等受け入れ状況

| 名 称      | 活動内容     | 月 日 | 延べ人数 |
|----------|----------|-----|------|
| 波多野錦綴り工房 | 施設外周辺の清掃 | 毎月末 | 24名  |
|          |          |     | 24名  |

(4) サービスの質

10月から小規模多機能型居宅介護事業所はぎの里オアシスが事業休止となり、当事業所がサテライト型から単独運営となりました。法人内の他事業所と兼務している職員が多く、情報共有を密にしながら運営しました。

事業所外部評価では、運営推進会議の中で話し合われた意見や事業所の課題などに対して業務改善に取り組みました。

(5) 安定した収入の確保

登録者数の推移としては、年間を通して新規登録者4名確保しましたが、登録終了者が1名あり目標の6名を達成することが出来ませんでした。

登録者確保の取り組みとしては、担当者が地域のサロンや行事へ参加し、また事業所独自で行事を企画して、交流会や外出を実施しすることにより登録者確保に繋がりました。田原地域の方のみならず、四ツ谷や佐々江地域、関係各所と連携し登録者確保に努めます。

(6) 職員の資質向上

法人の各種研修会に参加し、職員会議での伝達研修とインターネット研修を計画的に行い、職員の資質向上に繋がりました。

### (7) 地域貢献

事業所独自で行事を企画し交流会や外出を開催し地域の方に参加いただきました。  
また、地域の夏祭りの手伝いやサロンの送迎を実施しました。

## 3. 小規模多機能型居宅介護事業所はぎの里オアシス

### (1) 利用実績 登録定員18名(通い9名・泊まり7名)

単位：人

|      | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月   | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|------|----|----|----|----|----|----|-------|-----|-----|----|----|----|
| 登録者数 | 6  | 6  | 5  | 5  | 5  | 4  | 事業休止中 |     |     |    |    |    |

### (2) 実習・その他受け入れ状況

受入れなし

### (3) ボランティア等受け入れ状況

受入れなし

### (4) サービスの質

ご利用者やご家族の方から来所時や送迎時に伺ったご意見やご要望に対しては、職員間で情報共有し、臨機応変に対応するように努めました。

下肢筋力向上の機能訓練として施設内外の散歩を実施しました。転倒事故を防ぐために、必ず職員がマンツーマンで付き添い安全な移動を心がけました。参加されたご利用者にはスタンプカードにスタンプを集めて頂き、遊び心を加えながら楽しく実施することができました。

事業所自己評価（外部評価）を職員で取り組み、事業所の課題の把握と振り返りを行い、業務改善に努めました。

### (5) 安定した収入の確保

上半期は登録者の長期入院と新規の登録者がなかったために、登録者が減少しました。

登録者の獲得に向けて地域包括支援センター、医療機関、居宅介護支援事業所、近隣地域の民生児童委員、地域のいきいきサロンなどに参加し声掛けを行いました。登録につなげることができず、9月末日付で事業を休止することとなりました。

### (6) 職員の資質向上

法人施設内研修の参加と職員会議での伝達研修、個々のスキルに応じたインターネット研修を計画的に行いました。

運営推進会議で委員の皆様から頂いた意見や課題を改善に向けて取り組み、資質の向上に繋げました。

## (7) 地域貢献

地域にお住いの困りごとや介護の相談窓口として、認知症安心サポート窓口事業を継続的に行いました。感染症の流行状況を見ながら、横田区の行事やいきいきサロンに参加し、地域の方との交流を行うことが出来ました。

## 4. 特別養護老人ホームはぎの里オアシス

### (1) 利用実績

①長期入所定員20名（1ユニット10名）

単位：人

|         |      |      |      |      |      |      |      |
|---------|------|------|------|------|------|------|------|
|         | 4月   | 5月   | 6月   | 7月   | 8月   | 9月   |      |
| 月平均入所者数 | 19.1 | 19.5 | 19.1 | 17.7 | 19.0 | 19.6 |      |
|         | 10月  | 11月  | 12月  | 1月   | 2月   | 3月   | 計    |
| 月平均入所者数 | 19.5 | 19.0 | 18.2 | 16.8 | 17.0 | 18.0 | 18.5 |

②長期入退所状況

|        |    |    |    |    |       |    |     |
|--------|----|----|----|----|-------|----|-----|
|        | 在宅 | 病院 | 特養 | 老健 | ケアハウス | 死去 | その他 |
| 入所前の所在 | 1  | 1  | 0  | 2  | 0     |    | 3   |
| 退所先    | 0  | 1  | 0  | 0  |       | 6  | 0   |

### (2) 実習・その他受け入れ状況

|                                       |       |           |
|---------------------------------------|-------|-----------|
| 学校・実習名                                | 期 間   | 延べ人数(実人数) |
| 園部小学校4年生オンライン交流<br>(オレンジガーデニングプロジェクト) | 12月6日 | 30人       |
|                                       |       | 30人       |

### (3) ボランティア等受け入れ状況

感染症予防対策のため、受け入れはありませんでした。

### (4) サービスの質

ご利用者の生活の楽しみを計画的に考え、多職種間で協働し季節に合わせた行事を実施しました（4月お花見ドライブ、8月特養夏祭り・横田区夏祭り観覧、9月敬老祝賀会、10月横田区秋祭り神輿巡行観覧、11月おやつ作り、12月クリスマス会・園部小学校4年生オンライン交流、1月横田区とんど祭り観覧、2月節分巻き寿司作りなど）。また各月には誕生日会を開催、レクリエーション（こいのぼり箸袋作り・七夕飾りの制作等）を実施しました。

行事やレクリエーションを開催した際のご様子を特養オアシス機関紙（2か月毎に発行）としてご家族にお届けしました。日々のご様子についてはLINEや電話でお伝えするなどご家族との連携や関わりを深めました。

また、不定期ですが、介護職員より日々のご様子の手紙をご家族に郵送しました。ご利用者ご家族と相談員との間で連絡を取り合う場面は比較的多いのですが、手紙を通して介護職員とも関りが深められたと感じています。引き続き、ご利用者やご家族の安心につながるよう努めます。

毎月2回のケアプランカンファレンスを開催し、ご利用者の心身状況を多職種で情報共有しています。また、ご利用者との日々の関わりの中で汲み取った想いをケアプランに反映し、ご利用者の立場に立ったサービス提供に努めました。

対面面会を再開し、居室での面会も人数制限はありますが実施することができ、ご利用者ご家族の時間が双方の安心につながりました。

ボランティアの再開には至っていませんが、南丹市の介護相談員の受け入れを再開することで、ご利用者の日々の思いを受け止める機会となり、毎月の楽しみの一つとなっています。

今年度は、毎年実施している消防訓練に園部消防署署員に立合いをお願いし、これまで実施してきた初期消火・通報・避難訓練の過程を確認していただきました。さらに実際の有事に役立つ搬送訓練により各種搬送方法を実習することで職員とご利用者の安心につなげることができました。

#### (5) 安定した収入の確保

6月下旬に2名の退所後の入所調整時、入所前の生活場所での新型コロナウイルス感染症が発生したことによる入所の遅れ、また12月には2名の退所とその後の入所調整に時間を要しました。入院期間の長期化もあり、月平均で1～2名程度の入院があったことで実績が大きく下がっています。待機者確保は大きな課題となっており、今後も協力医療機関や関係機関への働きかけを行っていきます。

#### (6) 職員の資質向上

年間研修計画(事故防止年2回、虐待防止・身体拘束廃止年2回、感染症対策年2回、褥瘡予防、安全運転、摂食嚥下、認知症ケア等)に基づき施設内研修を実施しました。

また、オムツフィッターの講師を招き、排泄物品に関する勉強会と陰部洗浄勉強会を実施することで適切な排泄介助に向けて努力しました。

近隣の施設有志による「福祉ネットワーク中京都」を再開し、ご利用者のサービス向上に向けて、職員の情報交換を継続的に実施しました。

研修内容を全職員に周知することの課題は残りましたが、ユニット間、部署間での共有、指導に関しては次年度も引き続き周知できるように取り組みます。

#### (7) 地域貢献

横田区行事(夏祭り、運動会での防災訓練、美化作業等)に職員が参加しました。

横田区夏祭りの打ち上げ花火やとんど祭りはご利用者がベランダから鑑賞され、秋祭りは横田区のご厚意で施設前まで神輿を巡行していただき観覧することができました。

地域行事に様々な形で参加されることにより、ご利用者と地域の関係性が途切れないよう支援しました。

2ヶ月毎の運営推進会議では、サービス提供の内容について分かりやすくお伝えすることを意識し、横田区から行事協力のお礼の言葉もいただきました。

また、地域や関係機関との情報交換の場として南丹地域包括支援センターが主催するオレンジガーデニングプロジェクトの広報活動や横田区の地域情報など地域との関わりが途絶えないよう取り組みました。

## 5. 認知症対応型共同生活介護事業所はぎの里オアシス

### (1) 利用実績

①入居定員18名（1ユニット9名）

単位：人

|         | 4月   | 5月   | 6月   | 7月   | 8月   | 9月   |      |
|---------|------|------|------|------|------|------|------|
| 月平均入所者数 | 15.5 | 16.4 | 15.0 | 14.4 | 14.8 | 15.7 |      |
|         | 10月  | 11月  | 12月  | 1月   | 2月   | 3月   | 計    |
| 月平均入所者数 | 15.6 | 16.8 | 16.7 | 16.5 | 16.6 | 16.7 | 15.9 |

②入退居状況

|        | 在宅 | 病院 | 特養 | 老健 | ケアハウス | 死去 | その他 |
|--------|----|----|----|----|-------|----|-----|
| 入所前の所在 | 5  | 0  | 0  | 1  | 0     | 0  | 0   |
| 退所先    | 0  | 0  | 3  | 2  | 0     | 1  | 0   |

### (2) 実習・その他受け入れ状況

感染症予防対策のため、受け入れはありませんでした。

### (3) ボランティア等受け入れ状況

感染症予防対策のため、受け入れはありませんでした。

### (4) サービスの質

感染予防対策によりボランティアの受け入れや外出等に制限がありましたが、少しでも季節感を味わっていただける行事や雰囲気づくりに努めました。花見ドライブでは、車内の換気や消毒を徹底して実施しました。夏祭りではご利用者に浴衣を選んで着ていただき、大変喜んでいただきました。屋台での雰囲気を感じていただけるよう工夫し職員と一緒に楽しんでいただきました。秋にはベランダで焼き芋づくりを行い、紅葉ドライブでは馴染みの地域をまわりながらのドライブで季節を感じていただきました。クリスマス会、新年行事は感染症対策のため両ユニット合同での行事の実施はできませんでしたが、普段と違った特別食を楽しんでいただきました。2月節分行事には一緒に恵方巻作りをおこない生き生きとした表情を見ることが出来ました。美味しいと喜んでいただき、豆まきで厄を払いました。3月にはひな飾りの前で記念撮影とカフェタイムを行いました。

月に一度、手作りカフェを実施し一緒に作る楽しみや季節を感じていただけるよう努

めました。

面会については、人数や時間の制限のある中ではありますが居室での面会を再開したことにご家族様より嬉しいとのお声を聞かせていただきました。

隔月のグループホーム新聞では、担当職員より家族様へ普段の様子をお知らせさせていただきます。定期的な電話連絡にて施設での様子が伝わるように努めます。

## (5) 安定した収入の確保

上半期は、ご利用者の入退院後の当施設での看取り、老健・特養入所による退居、長期入院が重なったことにより、3名の新規入居となりましたが空床期間もあり稼働率が大きく低下しました。

下半期は、5名のご利用者の入院（偽痛風・被殻出血・薬剤調整のため長期入院・脱水・不明熱のため長期入院）により稼働率が低下したことで減収となりました。

業務の中では職員個々が節電意識を持って取り組み、また物品購入に関しても工夫をおこない経費削減に取り組みました。

今後もしもご利用者の健康状態の安定と稼働率を上げるために普段よりご利用者の体調の変化を観察し、早期の受診に結び付けることで、入院が長期化しないように努めます。

空床期間を短縮するためには、各種関係機関への働きかけを積極的に行うことで入居待機者の確保に努めます。

## (6) 職員の資質向上

新規採用職員への指導、各職員への面談等を中心に資質向上に努めました。個々の職員の得意分野を伸ばせる業務体制を整え、働きやすい環境づくりに努めました。

職員会議では、現状課題と考えられる内容を取り上げてインターネット研修を実施し、全職員の視聴とレポート提出を行い、日々の介護を振り返る機会をつくることに意識して取り組みました。研修レポートの提出と合わせて虐待予防チェックリストの提出もを行い、意識付けに努めました。

法人研修・オアシス全体研修会では年間研修計画に基づき実施しました。課題としては、研修受講後の他の職員への伝達が不足していることで、学んだ知識技術をサービスに繋げることの難しさがありました。職員間に情報や技術の差が生じないように取り組みます。

外部研修への参加では、法定研修（認知症介護基礎研修）の確実な修了や資格研修である認知症介護実践者研修の修了者もあり、現場での実習が認知症ケアに役立つように取り組みました。

## (7) 地域貢献

地域活動については、感染予防対策のため行事等への参加が出来ませんでしたが、横田区のご厚意で夏祭り、神輿やとんど祭りを施設内から見学させていただき、ご利用者に喜んでいただきました。

運営推進会議では、施設内の見学をしていただくことができず、スライドでご利用者

の普段の生活の様子や行事等の写真を観ていただき、事業所の取り組みをお伝えしました。今後も地域とのつながりを大切に、可能な限り地域活動に参加できるよう努めます。